

司式 熊田雄二 牧師
奏楽 五十嵐美代枝姉妹

前 奏
開 会 招 詞

* 賛 美 歌 78：1.2 輝く日を仰ぐ時

- 1 輝く日を仰ぐ時 月星眺むる時 雷(いかずち)鳴りわたる時まことの御神を思う
讃えよわが心よ 聖なる御神を 讃えよ わが心よ 聖なる御神を
- 2 森にて鳥の音を聞きそびゆる山に登り 谷間の清き流れにまことの御神を思う
讃えよわが心よ 聖なる御神を 讃えよ わが心よ 聖なる御神を アーメン

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈禱書2 罪の告白①

神よ、わたしを憐れんでください。御慈しみをもって。深い御憐れみをもって、背きの罪をぬぐい去って
ください。わたしの咎をことごとく洗い、罪から清めてください。わたしは咎のうちに産み落とされ、母が
わたしを身ごもったときも、わたしは罪のうちにあったのです。わたしを洗ってください。雪よりも白くな
るように。神よ、わたしの内に清い心を創造し、新しく確かな霊をさずけてください。救いの喜びを再びわ
たしに味わわせ、自由の霊によって支えてください。主よ、わたしの唇を開いてください。この口は、あな
たの賛美を歌います。

主イエス・キリストの御名によって。アーメン。 (詩編51)

罪の赦しの宣言

十 戒 祈禱書4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならな
い。それに仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、
み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
5. あなたの父と母を敬え。
6. あなたは殺してはならない。
7. あなたは姦淫してはならない。
8. あなたは盗んではならない。
9. あなたは隣人について偽証してはならない。
10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人
のものをむさぼってはならない。 (出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 78：3 御神は世人を愛し

御神は世人を愛し 独りの御子をくだし 世人の救いのために十字架に架けたまえり
讃えよわが心よ 聖なる御神を 讃えよ わが心よ 聖なる御神を アーメン

共同の祈祷 祈祷書40 新年礼拝

世界と歴史を支配しておられる、主なる神さま、栄光はすべてあなたのものです。今年も御国が
進展したことを覚えて、御名を賛美します。この一年も、わたしたちの信仰と生活を支え、祈りと
奉仕と献げものを尊い御業に用いてくださり、感謝します。わたしたちの苦勞は、決して無駄に終
わらないことを信じます。天の父なる神さま、あなたは、おびただしい証人によって、わたしたち
を取り囲んでおられます。わたしたちも、愛する聖徒たちと共に、信仰の創始者また完成者であ
る主イエスを見つめながら、自分に定められた競争を忍耐強く走り抜くことができますように。
主が栄光の内に再び来られるとき、朽ちない冠をいただくことができますように。(Iコリント9・
15、ヘブライ12)

献 金 (黒) 教会活動 (赤) 札幌伝道所 70

今ささぐるそなえものを 主よ きよめて受けたまえ アーメン

聖書朗読 ルカによる福音書12章1~7節 (新約聖書131頁)

説教・祈祷 「真に恐るべき方」 熊田雄二牧師

* 賛美歌 78:4.5 あめつち造りし神は

4 天地造りし神は人をも造りかえて 正しく清き魂持つ身とならしめたもう

讃えよわが心よ 聖なる御神を 讃えよ わが心よ 聖なる御神を

5 まもなく主イエスは来たり我らを迎えたまわん いかなる喜びの日ぞいかなる栄えの日ぞ

讃えよわが心よ 聖なる御神を 讃えよ わが心よ 聖なる御神を アーメン

* 主の祈り 祈祷書1

天にまします我らの父よ

願わくは御名をあがめさせたまえ

御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ

我らの日用の糧を 今日も与えたまえ

我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ

我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ

国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 頌 栄 63 あめつちこぞりて

あめつちこぞりて かしこみ讃えよ み恵みあふるる父・御子・御霊を アーメン

* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告 雨宮信長老 (司会・受付 次週：古澤兵庫長老)

本日 受付 1階：藤井牧子・大日南隆夫執事 2階：大日南信也執事／動画： 兄弟 録音： 兄弟

次週 受付 1階：藤原宏章・佐藤紀子執事 2階：古澤迪子執事 /動画： 録音：

※ 2グループ制により、長老も1階と2階に一名ずつ加わります

I 偽善

ファリサイ派の家に招かれた時、またまた論争が起こり、イエス様がひどくファリサイ派と律法学者を非難されたので、彼らは激しい敵意を抱いて質問を浴びせ始めた、と11章最後にあります。12章は「とかくするうちに」と話を続け「数えきれないほどの群衆」が集まってきました。しかし、ここではイエス様は大声を出して群衆にお話になったのではなく、「まず弟子たちに話始められた」とあります。

「ファリサイ派の人々のパン種に注意しなさい。それは偽善である」マタイ福音書では「ファリサイ派とサドカイ派の人々のパン種によく注意しなさい。」と言われました。儀式主義のサドカイ派も入っています。そしてその時弟子たちは、「パンを持って来なかったからだ」と論じ合っていました。

ルカ福音書では律法主義のファリサイ派のパン種に注意しなさいと言われて、パン種も「それは偽善である」と、御自分の方から種明かしされました。どちらが本当かと言うより、場面が違うので、この種のことは何回か言われた可能性があります。

何が偽善か、具体的に、前の話で指摘しておられます。安息日に関して勝手に細目を作っているあのはもちろん、食前に身を清めることについて「実にあなたたちファリサイ派の人々は、杯や皿の外側はきれいにするが、自分の内側は強欲と悪意に満ちている。」

「会堂では上席に着くこと、広場では挨拶されることを好む。」「薄荷や芸香やあらゆる野菜の十分の一は献げるが、正義の実行と神への愛はおろそかにしている。」と言われました。

弟子たちに、何を注意しなさいと言われたのかというと、あなたがたも偽善者にならないように、ということです。ですから、今日の私たちにも言われていることです。巧みに偽善なことをしても現わにされないものはなく、知られずに済むものもないと。人には見えなくても神には見えるからです。

II 真に恐るべき方

そして偽善の本質は、神を恐れる心がないことを、次の段落で指摘しておられます。つまり、偽善の本質は人を恐れる心にあることが見抜かれています。人目を気にしているから人に受けようとする。「会堂では上席に着くこと、広場では挨拶されることを好む。」

そんな彼らに迫害されても恐れるな。そんな彼らに殺されても恐れるなど、主イエスは言われます。主御自身、彼らによって十字架に架けられることになりますが、「それ以上何もできない者どもを恐れてはならない。誰を恐れるべきか、教えよう。それは、殺した後で、地獄に投げ込む権威を持っておられる方だ。」と断言されました。

ルカがこの福音書を書いている時点では、ユダヤ教がおもな迫害者でした。それから、だんだんローマ帝国が迫害者になります。そこでルカは、「会堂や役人、権力者の所に連れて行かれた時は、何をどう言い訳をしようか、何を言おうかなどと心配してはならない。言うべきことは、聖霊がその時に教えてくださる。」という主イエスの言葉で励ましています。

主イエスは「友人であるあなたがたに言うておく」と言われましたから、いつくしみ深い友なるイエスです。イエスがあなたの仲間であるなら、あなたもイエスの仲間です。だから言われます。8節「言うておくが、誰でも人々の前で自分を私の仲間であると言い表す者は、人の子も神の天使たちの前で、その人を自分の仲間であると言い表す。」

だから、人目を恐れて、「人々の前で私を知らないと言う者は、神の天使たちの前で知らないと言われる。」しかし、たとえイエス様を悪く言っても赦されるが、聖霊を悪く言う者は赦されない。恐ろしい言葉です。イエス様が口の利けない人から悪霊を追い出したのは聖霊の働きであったのに、悪霊のしわざだと言ったファリサイ派の人々は赦されないというのが、11～12章の文脈ですが、きょうのこの段落の文脈では、イエス様を仲間ではないという、人々の前で私を知らないと言うなら、つまり信仰を否定するなら、信仰を起さず聖霊を冒瀆することになります。

ルカ福音書全体の文脈では、人々の前でイエスを知らないと言ったペトロ、イエス様を仲間ではないと言ったペトロのことが思い出されます。しかし、ペトロは、今日までイエスの仲間であるとされ続けています。何があったのでしょうか。イエスを知らないと言った三度も言いましたが、悔い改めて帰って来ました。悔い改めの信仰を起さず聖霊を悪く言うことはなかったのです。イエス様もあらかじめペトロに言うておられました。「あなたは三度私を知らないと言うが、あなたの信仰がなくならないように祈った」と。

Ⅲ 新年礼拝

新年礼拝は、真に恐るべき方を恐れているか、問われる時でもあります。「初もうでは教会で」と言う時、いろんな神社やお寺に行くように教会でもと言っているのではありま

せん。新年にはまず、私が信じている神だけを礼拝したいという思いで教会に行くのです。他の宗教にもお参りするけれども、教会にもお参りに行くというのは、真に恐るべき方がもっとも嫌うことです。

ですから、新年礼拝は、信仰がなくなっていないか、試される時でもあります。真の信仰は、神々や仏その他もろもろを拝む信仰ではなく、天地創造の唯一の活ける真の神だけを礼拝する信仰です。この神は私を愛して、神の御子をこの世にお遣わしてくださいました。だから、主イエスは私のそばで私を「友人」と呼んでくださいます。だから、私たちには、いつくしみ深い友なるイエスです。